

最重度知的障害児(者)の適応行動評価

得点 ×: みられない △: 時々あるいは不十分にみられる ○: 常にあるいは十分みられる

-: 判定不能 (視力障害のため視覚行動が判定できない場合など)

I 人の認識

* ()内には具体的内容も記載

- (1) 特定の人を意識し関心を示す (見つめたり、笑いかけたり、声をかけたりする)。
- (2) 母親や身近な人の顔を見て、他の人と区別している。
()ひとりだけ ()ふたり以上
- (3) 親しい人 (例えば母親) と知らない人の声を聞き分ける。
- (4) 見知らぬ人に対して、いつも身近にいる人とは違う反応 (警戒あるいは関心) を示す。
- (5) 鏡に写った自分と他人を区別する。
- (6) 名前 (愛称でもいい) を聞いて、3人以上の人を区別する。
- (7) 写真を見て誰かがひとり以上はわかる。 ()
- (8) 眼前にある物について、特定の人との関係 (誰々用に使う物・誰々の所有物など) がわかる。

II 受容 (コミュニケーション)

A 表情・ジェスチャー

- (9) 他者の親しみと怒りを区別している (表情や声から)。
- (10) 指さしに反応して、その方を見る。
- (11) バイバイ、おいで、ちょうだいのような身振りの意味を理解する。 ()

B 聴覚・言語理解

- (12) 音のする方に顔か目を向ける (音源が分かり注意を向ける)。
- (13) 呼びかけに反応する。
()声かけに反応している (名前の理解はない) ()名前 (決まった愛称でもいい) にも反応している
- (14) 「だめ」 (禁止) の指示が理解される。
()ジェスチャーや語勢が加味されている ()言語指示のみに反応できる
- (15) 「ご飯」「さよなら」「おやすみ」などの簡単な日常生活語がひとつはわかる。
()ひとつだけ ()2~5語 ()6語以上
- (16) 体の大きな部位の名称 (例えば、頭・顔・目・鼻・口・腕・手・足) がわかる。
()1~2箇所 ()3箇所以上
- (17) 数がわかる。
()一つと二つ以上を区別する ()三つ以上がわかる

C 指示理解

* 指示はジェスチャーが加味されて与えられてもいい。実行が不十分でも、指示が理解されていけば可とする

- (18) ひとつの動作だけですむ指示 (「ここに来て」、「座って」など) に従う。
- (19) ひとつの物と関連したひとつの動作指示 (「本を持って」など) に従う。
- (20) 連続したふたつの動作を要する指示 (「学習室に行き、そして本を持って来て」など) に従う。
- (21) 条件付きの指示 (「手が汚れているなら、手を洗って」など) に従う。

D シンボル・文字理解

- (22) シンボル (トイレのマーク、交通標識、商標など) の理解がある。
()ひとつだけ ()2個以上
- (23) ひらがなが読める (3語以上)。
()3語以上 ()ほぼすべて (濁音・拗音・促音以外)

III 表出 (コミュニケーション)

A 表情・ジェスチャー

- (24) 不快や嫌悪の感情を他者に伝えようとする (単純なぐずりではない)。
- (25) 快の感情が、表情や動作に表される。
- (26) 親愛の情を示す他者の行為に対し、笑顔で反応する。
()撫でられることも加味されて反応する ()表情や声かけのみに反応する
- (27) 家族や親しい人には、親愛の情 (その他の人とは違う) を示す反応する。
- (28) 単純な快・不快以外に、喜び・悲しさ・恐れのような感情が表情に表される。 ()
- (29) 特定の物に対し (指差し、見つめる、声を出すなどして)、要求を示す (具体的要求に繋がっている)。
- (30) 問いに対し、「はい」 (同意) と「いいえ」 (否) を意味する身振りをする。
- (31) 「バイバイ」「ちょうだい」のような簡単な意味をもった身振りをする。 ()
- (32) 比較的複雑な動作 (ほうきで掃く、鍵をあける、皿を拭くなど) をする (具体的要求に繋がらず、

楽しんでいるだけでもいい)。()

B 発声・言語

(33) 声の調子で特定の感情・要求が表される。()

(34) 意味ある言葉を使う(ママなど、母親や介護者が理解できればいい)。

()ひとつだけ()2～5語()6語以上

C 支援要請

(35) 自分で解決できないことがあった時、その問題を具体的に示し(指さし・視線など)、他人に助けを求める。

(36) 具体的問題に対しすぐ助けを求めるが、「少し待って」という対応に対し、少しは待ってられる。

IV 遊び・興味

(37) ごく単純な他者とやりとりの遊び(手を振りあう、ボールのやりとりなど)をする。()

(38) 特定の物の感触(触覚、振動を含む)を好み、さわったり握ったりする。()

(39) 特定の音・テンポ・メロディを好む。()

(40) おもちゃや特定の物で遊ぶ(壊したり破ったりせず、5分ぐらいは続ける)。()

(41) 見て楽しめる物(好きなキャラクターを含める)がある(他人の動作・テレビ番組など)。()

(42) 身の周りの物を、他の物に見立てて遊ぶ(箱を車に見立てるなど)。()

(43) 3つ以上の物を組み合わせて、新しい物(見立て品でいい)を作って遊ぶ。()

(44) テレビ・ビデオ機器の簡単な操作はする。

(45) 複数の人でやりとりする遊び(ゲーム)に関心がある(一定のルール理解は必要)。()

V 日常生活

A 食事

(46) 空腹感から、食べたいという意志表現をする(指差し・視線で食物や食器への関心を示せばいい)。

(47) 食事を期待し、食卓の食事準備に協力している(静かに待っていらればいい)。自分で食べられない時には、介助に協力して口を開く。

(48) 自分で食器を使って食べる(自己流でいい。こぼしてもいい)。*いつも監視している必要がある場合は、△とする。

B 衣服

(49) 起床・就寝時衣服を替えることを理解している。自分で着脱できない時は、介助に協力して、手足を動かす。

(50) 自分で衣服をひとりで脱ぐ。*脱げるが、ボタン・ファスナーは外せなければ、△とする。

(51) 自分で衣服を着る。*一応着られるが、ボタン・ファスナーは介助がいるか、裏表・前後を間違えていないかチェックがいる場合は、△とする。

C 排泄

(52) 尿意を感じたら、自分でトイレに行く。あるいは、トイレに連れて行くことを介助者に要求し、排泄介助に協力する。

(53) 便意を感じたら、自分でトイレに行く。あるいは、トイレに連れて行くことを介助者に要求し、排泄介助に協力する。

(54) 睡眠時尿意で目覚め、自分でトイレに行く。あるいは、トイレに連れて行くことを介助者に要求し、排泄介助に協力する(睡眠時にも、おむつがいらぬ)。

(55) 自分でトイレに行き、介助なしで排泄を行う。*後でチェックがいる場合は、△とする。

D 危険予測

(56) 食べられない物は飲み込まない(なめるだけで終わればいい。異食はない)。

(57) 尖った物(刃物など)が危ないということがわかる。

(58) 火や熱湯の熱い物が危ないということがわかる。

(59) 階段周辺や高い所では、転落する危険を理解して行動する。

(60) 走っている車に近づいたら危ないということがわかる。

E 日課・外出

(61) 母親や主な介護者から離れるのに不安がある(行方不明となる危険は少ない)。

(62) 家や施設内での場所の違いがわかり、目的を持って移動する(あるいは、移動介助を求める)。

(63) 食事や外出など、一日のおおまかな日課を自覚している(準備し協力する。日課が狂うといらぬ)。

(64) 一週間の出来事の流れをある程度理解している(学校が定期的に休みになることがわかる程度でいい)。